

J            A            M  
**政策NEWS**

2006年4月3日 第2006-25号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

TEL 03-3451-2586

E-MAIL : [syakai@jam-union.or.jp](mailto:syakai@jam-union.or.jp)

## 4月1日から変わりました！

新年度を迎え、私たちの暮らしに係わる制度が変わります。公的年金制度の一部、改正高齢者等の雇用の安定等に関する法律、改正労働安全衛生などが、今日から施行されます。

国会では、衆議院厚生労働委員会で健康保険法改正の審議が、参議院厚生労働委員会では4月下旬から均等法改正法案の審議が本格的に始まります。

<p style="text-align: center;"><b>公的年金制度</b></p> <p>障害基礎年金と老齢厚生年金・遺族厚生年金との併給</p>	<p>障害基礎年金の受給権者（障害等級1・2級）に「老齢」や「死亡」を支給事由とする年金の受給権が発生しても併給ができなかった。</p> <div style="text-align: center;"> <p>このように併給できなかった</p> <table style="margin: auto;"> <tr> <td style="border: none;"><u>障害厚生年金</u></td> <td style="border: none; text-align: center;">→ 受給権発生 →</td> <td style="border: none;"><u>老齢厚生年金</u></td> <td style="border: none;"><u>遺族厚生年金</u></td> </tr> <tr> <td style="border: none;"><u>障害基礎年金</u></td> <td></td> <td style="border: none;"><u>障害基礎年金</u></td> <td style="border: none;"><u>障害基礎年金</u></td> </tr> </table> <p><b>65歳以降に限り、①～③のいずれかを選択できる</b></p> <p>① <u>老齢厚生年金</u>      ② <u>遺族厚生年金</u>      ③ <u>障害厚生年金</u>  <u>障害基礎年金</u>      <u>障害基礎年金</u>      <u>障害基礎年金</u></p> </div>	<u>障害厚生年金</u>	→ 受給権発生 →	<u>老齢厚生年金</u>	<u>遺族厚生年金</u>	<u>障害基礎年金</u>		<u>障害基礎年金</u>	<u>障害基礎年金</u>
<u>障害厚生年金</u>	→ 受給権発生 →	<u>老齢厚生年金</u>	<u>遺族厚生年金</u>						
<u>障害基礎年金</u>		<u>障害基礎年金</u>	<u>障害基礎年金</u>						
<p style="text-align: center;"><b>労働安全衛生法</b></p>	<p>①長時間労働者への医師による面接指導の実施          ②特殊健康診断結果の労働者への通知          ③危険性・有害性等の調査及び必要な措置の実施          ④認定事業者に対する計画届の免除          ⑤安全管理者の資格要件の見直し          ⑥安全衛生管理体制の強化          ⑦製造業の元方事業者による作業間の連絡調整の実施          ⑧化学設備の清掃等の作業の注文者による文書等の交付          ⑨化学物質等の表示・文書交付制度の改善          ⑩有害物暴露作業報告の創設          ⑪免許・技能講習制度の見直し</p>								
<p style="text-align: center;"><b>高齢者等の雇用の安定等に関する法律</b></p>	<p>65歳未満に定年年齢を定めている事業主は段階的に65歳まで安定した雇用を確保する措置の導入が義務化された。</p> <p>①～③のいずれかを講じなければならない</p> <p>①定年年齢の引き上げ          ②継続雇用制度の導入          ③定年制の廃止</p>								
<p style="text-align: center;"><b>診療報酬改定</b></p>	<p>今回の改定率はマイナス 3.16%</p> <p>【主な内容】</p> <p>①医療費の内容のわかる領収書の発行（完全実施は10月1日から）          ②初診料を2700円に統一（これまでは病院2550円、診療所2740円）          ③再診料の引き下げ（病院580円→570円、診療所730円→710円）          ④乳幼児の深夜診療を加算増額で充実          ⑤ハイリスク分娩（合併症などにより母体や胎児への分娩時のリスクが高い分娩）に保険適用          ⑥処方箋様式の変更（ジェネリック医薬品を選ぶことができる）          ⑦コンタクトレンズ装用者の定期検査は保険未適用（初回のみ適用）</p>								